

令和7年度 第2回石川県男女共同参画審議会議事録

日時：令和7年12月25日（木）15時半～17時

場所：石川県庁行政庁舎11階1109会議室

（浅野副知事）

本日もお集まり頂きましてありがとうございます。これまでも、前回のこの本会議と共に、ワーキンググループといった小委員会を何度も開催し、非常に活発な議論をして頂いて、今回今まで頂いた言葉をベースに意見を取りまとめさせて頂いて、素案を提示しました。

私自身も自分で読み込んで、手を入れさせて頂いたり、これまでの議論の構造を少し変えたり、色々手を加えさせて頂きましたので、途中お見せした内容と変わっている所もあろうかと思えます。

そして議論の中で、アンコンシャス・バイアスですとか、あの手の深い問題意識と課題について、ワーキンググループの中でも相当数発言があったようなお話は、かなり重みを持って表現をさせて頂いています。

ここから先、具体的に何するのかというところも非常に重要になってくると思いますが、まずは今回この素案を皆様にも読み込んで頂きながら、この後のパブリックコメントとか、そこにもかけていく内容を、本日以降しっかり揉み込ませて頂きたいので、忌憚なく引き続きご意見を頂ければと思います。

また、論としての整理学で何か違和感のあるところがございましたら、その辺りもしっかりこのタイミングでご意見を頂ければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

（八重澤会長）

こんにち。審議会の運営にあたり、委員の皆様のご協力を頂きたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。それでは時間も限られていることすし、議題の「いしかわ男女共同参画プラン2026（仮称）」の素案につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(山若課長)

本日は、年の瀬が迫る慌ただしい時期に男女共同参画審議会にご参加を頂きまして、まず感謝を申し上げます。これまで第1回の審議会、2回の小委員会を経まして、委員の皆様には様々な視点から示唆に富んだご意見を頂き、お陰をもちまして、本日新たなプランの概要をお示しすることができるところまで持ってこられたことに感謝しております。

本日はダイジェスト版での概要説明をさせていただきますが、委員の皆様にはあらかじめ本文の方もお届けしておりますので、そちらの方もご意見、ご提案を頂ければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、資料1「いしかわ男女共同参画プラン2026（仮称）」のダイジェスト版の表紙をご覧ください。変更箇所等は、特にご確認頂きたい箇所を朱書きとしております。まず副題につきまして、現行プランでは「男女が共に活躍できる石川へ-3つのC（チェンジ、チャレンジ、チャンス）の実現-」としておりましたが、新しいプランの策定では、小委員会でのご意見等も踏まえまして変更したいと考えております。

四角囲みのところに参考とありますが、近隣県の状況などを見ますと、例えば富山県では、「若者や女性からも選ばれる富山県を目指して」という表現をしたり、愛知県では、「すべての人が生涯輝く多様性に富んだ社会をめざして」、長野県の方では、「誰もが自分らしく生きられる社会をつくろう」といった男女の枠にこだわらない表現が見られることや、委員の方からのご意見等も踏まえ、副題を3つほど提案させてもらっております。一つは「全ての“あなた”が活躍できる石川へ」。2つ目が「私たちすべてが活躍できる石川へ」。3つ目としまして、「あなたもわたしも共に活躍できる石川へ」。この案に限るものではありませんので、後ほど皆様からご意見を頂ければと思っております。3つのCにつきましても変更したいと考えており、こちらについては2ページ目で説明をしたいと思っております。

それでは1ページ目をご覧ください。策定の趣旨について、本県ではこれまで男女共同参画推進条例やプランに基づき、さまざまな施策を積極的に推進してきました。しかし、昨年実施した県民意識調査などからは、依然として固定的性別役割分担意識や性別による無意識の思い込み、いわゆるアンコンシャス・バイアスが存在することが見受けられました。また、家事・育児・介護などにおける家庭内の理解と協力が不十分であるといったことや、あらゆる人が働きやすい職場環境の整備が十分でないことなどが、課題として浮き彫りになっております。また、令和6年能登半島地震の時も男女共同参画視点の災害対策について課題が明らかとなったことから、国の第6次男女共同参画基本計画も勘案しまして、今回計画を策定するものです。

なお、国の第6次の計画ですけれども、年内の策定を見送る方針を固めたと報道にもありましたが、今朝、国に確認したところ、これまで積み上げてきた議論もあるので、抜本的には変わらないとのことですので、本日はこれまでの基本計画の素案をベースに説明をさせて頂きたいと思っております。

計画の期間については、これまで10年ごとに策定、その中間の年に見直し改定を行ってきましたが、いただいたご意見から、計画の期間を令和8年度から12年度までの5年間に改め、今回は、新たなプランの策定として、名称を「いしかわ男女共同参画プラン2026」としたいと考えております。

次に、プラン策定の背景につきまして、県民意識調査などでは、「男は仕事、女は家庭」という考えに賛成する人が今でも根強く存在すること、それから管理職に占める女性の割合が14.3パーセントに留まり、先ほども触れましたが、女性リーダーを増やす上での障害としまして「家事・育児・介護などにおける家庭内の協力が十分でない」ことが男女ともに一番多い割合となっております。

令和6年能登半島地震の検証結果から、意思決定や災害の現場への女性の参画促進、それから女性防災リーダーへの支援・ネットワーク強化などに課題があったことが提言でまとめられております。

次に2ページ目をご覧ください。プランの基本的な考え方について、石川県男女共同参画推進条例に基づく（1）から（6）の6つの基本理念に則り、総合的かつ計画的に施策を推進することとしております。

その下、「石川がめざす男女共同参画社会」の3つのCについて、こちらの方は「Chance（チャンス）、Creation（クリエイション）、Collaboration（コラボレーション）」として、新たなメッセージを打ち出せればと考えております。

趣旨につきましては、Chance（チャンス）は、現行のプランでも使っていますが、機会の均等として、男女ともに社会や組織のあらゆる分野において、個性・能力を発揮できる機会が開かれている社会、という事を示しております。Creation（クリエイション）につきましては、「共に価値を生み出す」ことを指し、すべての人が、それぞれの生きやすい環境で、共に価値を生み出せる社会を示しております。3つ目のCollaboration（コラボレーション）につきましては「相互理解と協力」としまして、男女の「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）」を解消し、正しい相互理解のもとで協力できる社会を示しております。

次に、これまで掲げておりました3つの基本目標については、「基本的視座」に改めまして、3本柱の構成は変えずに、「Ⅰ 社会のあらゆる領域における女性の活躍推進」「Ⅱ 安全・安心な生活環境の確保、生きづらさの解消」「Ⅲ 男女の正確な相互理解と国際的調和」としまして、方向性に沿った表現に変更したいと考えております。

次に3ページ目をご覧ください。こちらはプランの体系になります。基本的視座、課題、施策の方向について、これまでご意見等を踏まえまして、今後一層取り組んでいかねばならないという認識のもと、表現や内容を見直ししております。

これまでとどの様に変えていくのかというのをご確認いただくため、資料2で、現行のプランと新プランの比較をお示ししております。

す。そちらをご覧頂ければと思います。左側が現行プラン、右側が新プランの案となります。

3本柱の各項目で大きく変更した点についてそれぞれ説明をさせて頂きます。現行プランの基本目標Ⅰの3番目の課題のところに、「男女の仕事と生活の調和（ワークライフバランス）等の実現について」という項目がありますけれども、小委員会でも、課題と施策がマッチしているのか、というご趣旨の発言があり、このように変更してはどうか、というご意見も頂きまして、新しいプランの方では、基本的視座Ⅰの3番目の課題になりますけれども、「多様な生き方やライフステージに応じた柔軟な働き方の広がり」に変更しております。併せて、課題の書きぶりを変えることで、項目も移動してはどうかと考えておりまして、現行プランでは、基本目標Ⅲのところ、「男女共同参画社会の視点に立った各種制度等の充実」という課題があるのですが、そちらの施策の方向にある「（2）多様なライフスタイルに対応した子育てや介護の支援」という項目を、新しいプランの方では今ほど申し上げました、「多様なライフステージに応じた柔軟な働き方の広がり」の（3）として「子育て・介護等における女性の負担の是正」という風に表現を修正して移動したいと考えております。

次に2本目の柱になります。令和6年能登半島地震対応をしっかりと盛り込んでいかなければいけないということ、これまで小委員会などでもお話しておりましたけれども、現行プランでは、基本目標Ⅱの「人々が安心して暮らせる環境の整備」の施策の方向にあります（6）のところに「災害対策における男女共同参画の推進」という項目があるのですが、これを新しいプランでは、新たな項目としまして、基本的視座Ⅱの方で「災害の教訓を生かした女性特有の負担の是正」、4番目になりますけれども課題に設けまして、その下に「（1）非常時・平常時双方における男女共同参画の視点の反映」と「（2）男女共同参画の視点を活かした創造的復興の取り組みの推進」を盛り込んでおります。

次に3本目の柱になります。国の基本計画でも触れられておりますが、長きにわたり男女共同参画社会の実現に向け、国を挙げて取り組んできているわけですが、依然として課題が多い背景には、無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）があつて、それは幼少期から形成され、根深いものだということをこれまでも委員会の中でも議論頂いてきました。そういったことも踏まえて、現行プランの基本目標Ⅲの「あらゆる人々に対する男女共同参画の理解促進」と、「男女共同参画の視点に立った各種制度等の充実」の二つの項目を新しいプランでは一つにまとめ、「根底にある無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消」として、その下に「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消」につながる広報・啓発活動の推進などの施策を盛り込んでおります。

この他、国の動きや、この5年間で新たに制定あるいは改定された法律なども踏まえて、課題や政策の方向性の表現を改めております。例えば、赤字のところになりますけれども、ジェンダーに基づくという表現や困難に陥らないに修正したり、これまで女性の健康支援という表現をしましたが、身体的性差の理解という言葉を加えて、女性に限らず、生涯を通じた健康支援へ変更をしております。また、現行のプランでは、基本目標Ⅲ「多様な文化の尊重および理解の促進」という項目を挙げておりますけれども、これは元々女性を取り巻く問題は国や地域によって多種多様で、それを知ることによって身近な地域の課題に気付くことができる、そうした比較の視点が大事である事を分かるよう表現を修正し、「国際社会の中の日本、日本の中の石川という比較の視点」にしております。

これら体系を修正するとともに合わせて本文の方も見直しをしておりますので、お気づきの点などありましたらご意見頂ければと思います。

それでは資料1の方にお戻り頂きまして、4ページをご覧ください。この4～6ページの方は、各基本的視座と今ほど説明しました課題と施策の方向、そして、それに対する数値目標について記載をしております。見方としましては、基本的視座Ⅰの課題1「社会や

組織の方針立案決定過程への女性の参画」に課題があることから、方向性としまして（1）から（4）の方向性、取り組みの方向性を示しておりまして、それによって目標として管理職の率を上げていく、自治会長に占める割合を上げていくこととなります。時間の関係もありますので、細かいところは省略させていただきます。

最後に、7ページ目をご覧ください。こちらは数値目標となります。今ほど御覧頂きました主な数値目標を含み、24項目を設定しており、プランの着実な推進を図ることとしております。

資料の説明は以上となります。委員の皆様には、今ほど説明した内容のほか、プランの副題、それから資料3としてお配りしております本文もあわせてご意見ご提案を頂ければと思いますので、よろしく願いいたします。

（八重澤会長）

ありがとうございます。とても深い内容を手短かにまとめてくださいまして、まずは大変な作業を色々ありがとうございます。

これにつきましては、ご意見、ご質問等、皆様たくさんおありになるのではないかと思います。本当は順に、視座Iとやってやっても良いのですが、今すぐにご意見あるいはご質問等ある委員の方はご発言をお願いいたします。

（中村委員）

意見と質問です。意見は、副題の案を3つ提案して頂いているんですけども、全ての人ということで、一人も取り残さないという意味では、3番目の「あなたもわたしも共に活躍できる石川へ」が良いのかなと思いました。

それから、これは質問ですけども、3つのCのところ、チャンスの主語は「男女ともに」というところで、次のクリエイションは「すべての人が」というところで使い分けをされているんですけども、これは機会均等のところで行くと男女の均等な雇用機会とか、そういうことを意識して分けられているのでしょうか。

(八重澤会長)

質問が、チャンスの方が「男女」という意味ですよ。そしてクリエイションは「すべて」ということで、特に男女にこだわってないという意味ですか？

(浅野副知事)

そういう理解です。中村さんに頂いたコメントのところを私も読んでおまして、この構造や枠についての違和感はどうですか？

並びや構造や話の流れなどだけはめてしまえば、あとは細かい文言ベースの話の色々個別にもご意見頂いたりしてパブコメまでに整えていける気がしますので、是非、今みたいな大枠の構造の話というのを頂ければと思います。

そして私も、これ実はこの3つのCというのが、前も3つのCというのがあるから、とりあえずCを何か内容を変えて、言い振り変えてという中で、皆さんにお聞きしたいところがあるんです。基本的視座という風に作り、課題と施策の方向性を並べているこの3つの視座という話に、この3つのCの話をとりあえずはめ込んでいるんですけれども、はめ込む必要があるかどうかです。

要するに、3つのCというのが前の現行プランでも書いてあるので、ここも見直してしまして、そういう意味ではこちらとしても皆さんに改めて問いかけてみたいなのと思っているのが、論理的な順番で言いますと、最初に考えていたのは機会が均等であって、要するに両性の相互理解と協力があって、それで共に価値を生み出す社会っていう、Cの並び方は、実は「チャンス、コラボレーション、クリエイション」であって、最初はとりあえずそんな目標を並べればいいのかと思っていたのですが、ただ、事務局の方では、今、基本的視座Ⅰ、Ⅱ、Ⅲっていうところに、「Chance（チャンス）、Creation（クリエイション）、Collaboration（コラボレーション）」と記載しています。ここでこう並べているのですけれども、ちょっと実は、基本的視座Ⅱのところっていうのは、ある種、安心安全とか暴力からの、暴力を受けないとか貧困から抜け出すとか、

最低限の環境を絶対まず保証しましょう、という内容のところ、
なんていうかコラボレーションみたいな感じの書きぶりになってい
て、もしかすると意味に少し齟齬があるかもしれないとか、そんな
こともどうすればよいかと思いを持ったまま、今日の資料に載せて
います。

ですから、この3つのCというところを、とりあえずCはCで並
べるという話なのか、やっぱり各視座のところには当てはめるべきな
のか、切り離していいのかについて、読んで頂いたところの感覚で
ご意見を頂けたらと思います。あとは基本的視座の中に似た課題、
似た政策というのは一応まとめたつもりなのですが、そういう構造
のところを是非、違和感の表明からご意見まで、色々頂けたら幸い
です。

(八重澤会長)

はい、ありがとうございます。今日はですね、素案の読み込み
っていうのを最重要課題にしましたね。そして細かいものはまた微
調整はいつでも出来ますので、まずこの3本柱、それからダイジェ
ストの最初に掲げているチャンス、クリエイション、コラボレーシ
ョンが本当にどうなのかということについてですが、ご意見はござ
いますか？

(中村委員)

基本的な理念を象徴的に表すということですから、この3つのC
はあったほうがいいと思います。で、基本的視座とは、やはりなん
とか繋げたほうがやはり分かりやすいと思います。

私も思いましたのが、最初にこれを頂いた時、3つのCを並べる
としたら、副知事が言われた通り、相互理解が真ん中に来るのかな
という風に思いつつ、基本的視座と繋げようとするところという順番
になるのかなという風なことで、順番はこれがいいのかなと思いま
した。ただそういう目で見ると、クリエイションというところまで

基本的視座が述べているのかどうかというところがありますので、ちょっと繋がりが分かりづらいのかなと思います。

価値を生み出せる社会の、まだその手前の、安全な環境を整えましょうっていうのが基本的視座になってきて、そういう文章にはなっているので、ちょっとここの飛躍があるのではないかという印象はありますが、なかなか自分の中で良い言葉が見つかりませんでした、これはこの通りでもいいのかなと思っています。

(八重澤会長)

ありがとうございます。私はこの3つの単語は良い感じがしています。コラボレーションというのは、私は「国際協調」という風に受け止めました。つまり日本はかなりランキングとしては下の方なので、色んなことやっているのだけれど、何がどう足りなくてどこをどう改善すればいいのかということを考えてやっていくことが大切だと思います。細かい違いはあるのですが国際社会と手を組んでいくこと、これから日本人がどんどん世界に出て活躍されたり、あるいはどんどん受け入れたりっていうことがどうしても希求される社会になりますから、コラボレーションは国際協調のところに入れて頂いていいかなと思います。

また、価値観のクリエイションのところでも、安心安全な生活環境、生きづらさとの決別というところで、そこに当てはまるのかなと思います。無理しているわけではないのですが、単語の短さについても、もう格好良くて、だんだん長くなったほうがいいかと個人的に思いました。

(浅野副知事)

皆さんに違和感がなければ結構ですけど、このチャンス、コラボレーション、クリエイションは、実は基本的視座のⅠからⅢまで全部に、それぞれに関わっています。チャンスは基本的視座のⅠとⅡの両方に関わっていて、生活上の困難や暴力から抜け出せなかったらチャンスも何もないでしょうという話ですとか、コラボレーシ

ョン、クリエイションもまさに基本的視座Ⅰのど真ん中に入っている話です。3Cと視座は必ずしも一対一で対応していません。全てについてそれぞれ3Cが全部入っています。だから、そこも割り切って切り離すのかどうか、要するに一番上の目標として3Cがあつて、視座はそれぞれ3Cが包含されている構造でも良いのかなと思ひながら、皆様にご提示差し上げたところでした。

今の私のコメントを別にそのままそうだという話でなくても全然構わないのですが、無理に繋げなくてもいいというところと、基本的視座のⅠからⅢまで全部3Cが入っているのを、そのまま飲み込んでもいいのかもしれないというのも一つの考え方ではあると思ひます。

（高橋（健司）委員）

ちょっと言いづらいなのですが、私はこの副題の案が出てこれを読む中で、この3Cというのに違和感がかなりありました。タイトルがあり、3Cがあり、副題というのは、何を訴えたいかが少しボケていると思ひました。特に3Cの中身は、もうプランの中でしっかりと盛り込まれていることばかりなので、あえてこの副題を入れるなら、3Cはいらないのかなと思ひました。

それと今回この案をもらった時に、相当読み込まれて根本的に見直された感がすごく強かった中で、少しびっくりしたのが、新しい言葉がいっぱい出てきて、突っ込んだ話になっているのを感じました。特に気になったのが「視座」という言葉です。これまで「目標」だったものが「視座」という俯瞰したものになっていて、この「視座」をどういう風に捉えられ使われたかの説明があるのかなと思ひていましたが、説明が無かったので、そこを確認してみたいなというのが一つあります。また、「分野」と「領域」という言葉が両方使われていて、その使い分けが自分の中で読んでもストーンと落ちなかった部分があるので、理由をお聞かせ頂けるとありがたいかなと。全体的な体系についてはすごく考えられたなと思ひております。

(浅野副知事)

高橋（健司）さんが仰っていることは私も実はすごく同感しております。タイトルも副題も3Cもいるのかというのはあります。

並べるとどこが本当に言いたいことなのか分からなくなりますし、現行プランを直しながら中身を変えていくことをやる上で、どこに目標を置こうかというのは、筆を入れながら私も悩んでおりました。「目標」と書きながら次に課題というのがあって施策の方向性っていうところが、少しどうなのかと思っています。「目標」に戻すのもいいと思います。

ただ「目標」に戻したところで今度は3Cの関係どうなるのかという問題があり、大胆にどこか一つを削ってしまうと案はあると思います。過去にある土台の上で、あまり大胆にならずに見直しているので、冗長感があるというのが今の状況です。

ですので、そのあたりも含めて、「ああしたほうが良いんじゃない、こうしたほうが良いんじゃない」というご意見を頂けるとまとめやすいと思っております。

(八重澤会長)

わかりました。そうしましたら、言葉の点についてはお話しいただいたこともあわせて、もう少し考えてみましょう。

ここでもう一つの課題が出てきましたが、副題はこんなにたくさんいるのかということもありましたので、それも併せて検討しましょう。高橋委員は、いかがでしょうか？

(高橋（涼子）委員)

3つのCが最初に見た時に繋がっているという風に全然思えなかったもので、これはこれ、それはそれなのかなと思って見ていました。お気持ちとして繋げたいってということで、チャンスとコラボレーションについてはいいのかなと思うんですけど、クリエイションにかなり違和感があるので、Cにこだわらずに別の単語を当てはめられるか、これを削るかぐらいでいいのかなと思います。

クリエイションで「共に価値を生み出す」というのは、どんな価値を生み出したいのかとか、「すべての人がそれぞれの生きやすい環境で」というのは、生きやすい環境を作ることこそが必要なんじゃないかと。クリエイションについては違和感があるので、ここがもう少し全体的に揉まれていいものになればとてもキャッチーになると思うのでご検討頂きたいです。

それからもう一つは単純に文章の中での言葉の使い方で、資料の2ページ目、策定の趣旨の説明の3段落目で「能登半島地震の検証結果では」というところに「男女共同参画視点の災害対策については新たな課題が明らかとなりました」とあるのですが、「男女共同参画の視点から従来の災害対策について新たな課題が明らかになりました」というべきじゃないかな。ちょっと言葉足らずだなと思いました。

(山若課長)

ありがとうございます。策定の趣旨の部分につきましては確かにその通りだと思います。見直しさせて頂きたいと思います。

(八重澤会長)

それから、高橋先生、クリエイションの点についてもまた少し検討させていただくということによろしいですか。

(高橋(涼子)委員)

はい。

(久保委員)

私は、むしろ副題の案ではなくて、この「3つのCの実現」というものだけを残せばいいのではないかと思いました。例えば副題の案の中から選ぶのではなく、このようなものもあり得ますという案を後でご連絡いたします。

「基本的視座Ⅲ」について、もしこれを「コラボレーション」と繋げるのであれば日本語の方を調整するっていうことも考えられます。例えば「国際的な調和」という言葉と「コラボレーション」をつなげるより、「国際的（な）協調」とか「国際的（な）協働」のようにするとコラボレーションをここに出す意味というのはあると思います。

先ほど高橋（涼子）先生が仰ったように、2番目のクリエイションのねらいは分かるのですが、他の言葉に変えるのがいいと思います。

（八重澤会長）

今意見を言う上で非常にありがたいので、他の委員もどうぞ発言してください。やはり表紙ですから、パッと見た時にインパクトがありますから、表紙は表札のように大事にしましょう。

（橋本委員）

全体を見るとまた違って来るかもしれないんですけども、意見を出させて貰うと、こちらにある基本的視座っていうのは、方向性とか価値観について書かれてあるもので、ミッションとかそういうものだとしたら、そちらの3つのCというのは行動、やるべきことを書かれてあると思っています。

ですから、それぞれがあってこそ、ビジョン・ミッション・バリューとか、私たちの会社でも作っているのですけれども、そういう風に価値観と実践の行動軸というものを書くというのが大事ななと思ったので、私は賛成しております。書き方とか、言葉を変えていけばいいのかなと思っています。

また、このコラボレーションについても、要はジェンダー平等とか色んな人たちが合わさって話し合っって協働することによって新しい価値が生まれるっていうのが、私は男女共同参画の一番大事な視点だと思っているので、これは書き方を分かりやすく書いて頂ければいいかなという風に思いました。

(浅野副知事)

ちょっと質問なのですが、「分かりやすく」と仰って頂いたのはどの点ですか？

(橋本委員)

私はこれで分かりやすいと思うのですが、コラボレーションってというのが、男女共同で何かした時になぜ新しい価値が生まれるかっていうことを一言、分かりやすく書いた方が良いと思います。

(浅野副知事)

皆さんに分かるようにということですね。ありがとうございます。

(中村委員)

副題についてなんですが、私は個人的にはあった方がいいかなと思います。というのは、その後3つのCとか色々あるけれども結局一言で言ったら何ですかって言うと、みんなが一緒に活躍できる社会が男女共同参画社会です、ということを端的に表しており分かりやすいので、副題はあったほうが良いというのが個人的な意見です。

(八重澤委員)

その辺は検討させて頂いて良いですか。多分今ここでは結論は出ないと思っておりますが。他にも表紙についてのご意見のある委員の方はいらっしゃいませんか？

(山崎委員)

副題と3Cは、どちらかでもいいのかなと思っておりますが、結論は出ないということで、一意見としてお伝えさせていただきます。

あとはクリエイションっていう言葉は、私もちょっと違和感があったものの、他の言葉で言い換えるとなるとどんな言葉があるのかなと思って考えていたんですが、「安全・安心な」という文脈で言うとかアなのかなと思いつつ、でもクリエイションがやっぱりいいのかなと思っていました。

なぜかと言うと、ケアということだと支援、守り的な意味合いが強いのかなと思っていて、クリエイションだと変化、作り替えるみたいなのところの意味合いにもなるので、安心・安全っていうのを作り出していくみたいなのところにも、基本的視座のⅡですかね、あそこで読み解くこともできるのかなと思って考えておりました。

(八重澤会長)

他に意見ありますでしょうか。

そうしましたら、私ちょっと分からないところがあるので教えて頂きたいのですが。ダイジェストの2ページ目の基本理念のところを見てください。基本理念の(2)、これはどういう意味でしょうか。「社会における制度や慣行についての配慮」、これはどのような形でこの目標を定められたのか、その背景を教えてください。

(山若課長)

こちらの方は、県の男女共同参画推進条例の方に基本理念が掲げられておまして、読み上げますと、「男女共同参画の推進に当たっては、社会における制度又は慣行が性別により固定的な役割分担等を反映して男女の社会における活動の選択に対して中立でない影響を及ぼすことのないよう配慮されなければいけない」と、この文言を要約させてもらいました。

(八重澤会長)

分かりました。これは「現在存在している制度あるいは慣行というものの枠に収まるように」という風にも取れるのではないかとちょっと心配になったんです。それで「慣行についての配慮」って言

うと、「今まで社会はこうやってきたんだから突然変えるのはおかしいよね」ということにならないかどうかっていうことをちょっと心配したんです。

(浅野副知事)

そういう趣旨ではなく、要するに文言としては、それが歪めてしまっている現実配慮しましょうっていうことですよね。

(八重澤会長)

そういう書き方にはどうも読めないんで、これをもう少し配慮する必要があるかなっていう風に思いましたが、いかがですか？

(中村委員)

実は私、前にそんなことを事務局の方にお伝えしたんですけど、八重澤先生が言われたような現状に配慮してっていう風に捉えられてしまうので、言葉遣いを変えたほうがいいのかという風には今思います。八重澤先生と全く同じ印象を持ちました。

(山若課長)

ありがとうございます。

(八重澤会長)

今事務局の方から教えて頂きましたけど、その趣旨とこの一文はちょっとギャップがありますよ。

(山若課長)

承知しました。この条例を読み込みまして、その趣旨に合うように表現の方は変えさせていただきます。

(八重澤会長)

私もさつきから国語辞典を引っ張ってきて、考慮、検討、検証、勘案、推察とか、いろいろ代替案を考えたんですがなかなかうまくいかないの、後で事務局の方、どうぞよろしくご検討して頂ければと思います。

(山若課長)

ありがとうございます。本文と趣旨が外れないよう、表現を修正させていただきます。

(八重澤会長)

よろしく願います。他に何かご意見ある方いらっしゃいますか？それでは、他のページでも良いので、何か議題がありましたら教えてください。

(松崎委員)

数値目標のページのことでもよろしいですか？基本的視座Ⅰで「ワークライフバランス表彰企業数」の記載がありますが、この課がご担当の「石川男女共同参画推進宣言企業」についての記載がありませんでした。その理由についてご質問をさせていただきます。

(山若課長)

宣言企業ですが、現在 600 を超える企業の方に手を上げて頂いておりますが、来年度に向けて見直しを考えておりました、それを踏まえて数値目標に入れていくかどうかを検討していきたいと考えております。

(松崎委員)

わかりました。

(久保委員)

数値目標のページについてのご意見が出ていましたので申し上げます。例えば、県職員の男性の育児休業取得率目標を100%にできませんか。また、取得率を目標にすると実質が見逃されることが危惧されます。取った人がどれぐらいいるかではなくて、100%の取得率を目標にかかげること、そしてどれぐらいの割合の男性が、どれぐらいの長さの育児休業を取得したかという方が重要だと思います。そのような形で進んでいるとも伺っておりますけれども、私の意見としてもそのように申し上げたいと思います。

そして、現状値や目標値をどのような数値で表すか、というのは色々な考え方があると思います。例えば、「基本的視座Ⅲ」の「放課後児童クラブ登録児童数」は、人数で目標値が書かれていますが、こちらは人数ではなくて割合のほうが良いのではないかと思います。日本においては少子高齢化が深刻な問題になっているという問題があります。ここは、登録者の数ではなく、達成する割合を高めていくということのほうが現実に即しているのではないかと思います。

(八重澤会長)

ありがとうございます。男性の育児休暇は、取得率ではない方が良いということですね。

(久保委員)

長さが重要です。取得率を高めていくという事は良いんです。県職員の方の場合は、目標値を100%にできないかということと、後は、取得率を高くすることも必要なのですが、それぞれの人がどのぐらいの期間の休暇を取ったか、ということが実質的に大切ではないかと思います。これは私よりもお分かりの方がいらっしゃると思いますので、このことについてもご意見いただければと思います。

(人事・組織経営課)

ご意見ありがとうございます。男性の育児休業の取得率の関係でありますが、今まさに、県の方で特定事業主行動計画というものの見直しをさせて頂いているところでございまして、その中でどのような目標値の設定ができるかというところを検討させて頂いておるというところでございます。今の委員からのご指摘も踏まえながら、どのような対応ができるか検討していけたらと思います。よろしく願いいたします。

(八重澤会長)

児童クラブの方はパーセントで、という事でしたね。

(久保委員)

はい。人数で表すとちょっと分かりにくいんじゃないかと思えます。この項目で語るべきは、制度の対象となる児童のうち、どれくらいの割合の児童が実際に利用しているのか、ということだと思います。人数を具体的に示すことは、これから少子化が進んでいくことはどうやら避けえないことです。パーセンテージ自体はあがっているのに、人数だと減ってしまっているとなると意味の大きくない、分かりにくい数値になるんじゃないかと思いました。

(八重澤会長)

事務局の方は、いかがでしょうか。

(事務局)

放課後児童クラブの担当の係の者が本日欠席しておりますので、事務局で預かりまして、また後日回答させて頂きます。

(久保委員)

ありがとうございます。よろしく願いします。

(山若課長)

事務局からも一言よろしいですか。久保委員のご指摘もあって、県職員の男性の育児休暇の取得率の事もそうですが、どれくらい期間を取っているかということも大事というお話もあったと思います。目標は、担当課でご検討頂くのですけれども、そういった課題もあるという事で、本文の19ページのところに、育休の取得の日数のデータについて、今回新たに入れさせてもらっています。男性の育休の取得の期間はやはり少ない、女性の方は長いということがこのグラフを見て頂ければ分かると思います。

(山崎委員)

久保さんのお話を受けて、私も同じ箇所でお伝えしたいんですけれども、県職員の男性の育児参加休暇の取得率は落としてもいいのかなと私個人的には思っています。これは県独自の制度だと思うんですけども、数日ぐらいの期間で、有給で取得できるような意味合いですかね。もしそうだとすると、日数が大事という話なので、ここ数日取ったことは、あまり影響はないのかなと思っていまして、そんなに重要な指標ではないだろうと私は思っています。

久保さんがおっしゃる通り、日数はすごく大事だなと思っていまして、KPIにするならば、例えば「3ヶ月以上取得する男性職員の数半数以上にする」ですとか、「平均育休取得日数を何日以上にする」とか、そういった目標を掲げるほうがいいのかなと思っています。期間の最適な目標値ですけど、私個人的には「3ヶ月以上」と思っています。なぜならば、女性の心身の健康が戻ってくる期間が大体3ヶ月くらいだからです。産後うつリスクが低くなるのが大体3ヶ月程度ですし、出産で交通事故にあったのと同じぐらいのダメージを受けている体も大体3ヶ月ぐらいに元に戻るということなので、目標値としては3ヶ月以上かなと思っています。

(八重澤会長)

はい、ありがとうございました。やっぱりインデックスに何を使うかっていうのも一つのリアルな実態を表すことになると思うので、それはやっぱりよく考えて統計を取る必要がありますよね。

(久保委員)

言葉足らずですみません。育児参加休暇ではなくて育児休業です。混同して申し上げたかもしれませんが、大切なのは育児休業の長さです。

(山崎委員)

同じ認識です。「育児休業」が大事という認識です。

(八重澤会長)

事務局からこのことについて、何かございますでしょうか。

(人事・組織経営課)

ご指摘ありがとうございます。実は、先ほど申し上げました県の特定事業主行動計画は、今年度見直しの年になってございますけれども、委員が仰った通りでございまして、国の方からも男性の育児休業の分布状況、こちらについても非常に重要だというようなことで指摘を受けておるところでございます。そこも含めて、目標値をどうすべきかを現在検討させて頂いているところでございます。

(浅野副知事)

一つご質問させて頂いてよろしいですか。今のお二方からのご意見というのは、こんな率だけだと、一日か二日でも取得したとカウントしてしまうので、ちゃんと正確にしっかりと休暇が取れる形でKPIの目標値を設定して欲しいという趣旨と理解すればよろしいですか。はい。わかりました。

(八重澤会長)

それでは他に。あと30分くらい時間がありますので、他はいかがでしょうか。素案をご覧になりまして、いろんな意見、あるいは感想等あると思うので、順番に伺っていてもよろしいですか。まだご発言されてない方で発言してください。能木場委員、いかがですか？感想でもなんでもどうぞ。

(能木場委員)

副題の案が3つ出ておりましたけれども、例えば「あなたもわたしも共に活躍できる石川へ」として、次に3つのCを載せて頂いたら、基本的なこの三つのところ全てにチャンスであり、クリエイションであり、コラボレーションもみんなどっかに皆が引っかかっているってような感じに思われますので、一番最初の副題を「あなたもわたしも共に活躍できる石川へ」、その下に3つのチャンスを載せて頂いたら、今度は基本的な視座に結びついていくんじゃないかなという風に思いました。

(八重澤会長)

どうもありがとうございます。西田委員はどうでしょうか？

(西田委員)

ちょっと感想的になるかもしれませんが。資料で、このプランの基本的な考え方、資料の5ページになると思うんですけども、基本理念がある、それは条例にうたっているところを基本理念とするっていう位置づけがあって、プランってというのがそういう副題をつけるということですけど、副題についてはその3番目のものがいいんじゃないかなと思います。続いてくると3Cとか基本的視座とくると何か分かりにくいというか、どこに重点を置いているかがわからない。

基本理念が一番大事で、それを受けてこのプランは石川が目指す男女共同参画社会ということで、もっとわかりやすく副題をつける

ということだけでいいんじゃないかなと思うので、結論的に言うと、3Cは要らないんじゃないかなと思います。

だから、基本的視座はやっぱり目標の方が多分わかりやすいんじゃないかなと思います。基本的にはやっぱり県民の皆さんがこれを読んでわかりやすいっていうのが一番大事だと思うので、視座でも目標でもどちらでもいいということであるならば目標でいいと思います。ただ、その基本的目標って書くと、基本的って何かと思ったので、別に目標でいいんじゃないかなっていう気はちょっとしました。

いずれにしても条例に書かれていることが基本理念だということで、このプランというのは行動計画であると思うんですけども、基本理念に基づいてこのプランを作っていますよっていうことをはっきり県民にアピールするには、今言ったような方法の方がいいんじゃないかなと思いました。

(八重澤会長)

ありがとうございます。何か事務局の方から意見ございますか？

(浅野副知事)

こちらとしてもすっきりする議論というか、私達も過去の経緯を踏まえて、なんか違和感のあるところを少し削ったり直したりっていうことをやってきたんですけども、今日頂いた議論を踏まえると、例えば本当に3Cだっていないかもしれないし、構造そのものも次回皆様にお示しする時、こちらで少し工夫をしますので、その作業のために確認させて頂きたいんです。

例えば基本的視座っていうのも、本当にこれ3ついるのかという問題や、実は「土台になる安心とか生存条件を整えること」と「活躍の機会があること」という、そういうすっきり2つの話に分けられるのではないかということもあるかと思います。

課題と並べたところも、実は数を減らしているんです。施策の方向性っていうのも実は束ねているんですね。あまりにも項目がこま

ごま並んでいると分かりにくいし、シンプルに項目の数が減れば減るほど分かりやすい。まとめていけるように、例えば視座が次にお出しする時に3つが2つになってしまったみたいな話も含めて、シンプルに分かりやすく、何重にも重なってないメッセージに整えてくるというか。そういった形でご提案を差し上げて、いやそれはちょっとまとめすぎだろうみたいな話だったら、ちょっとそこは分けましょうかとか、そのぐらい修正してもよろしいでしょうか？

皆さんに頷いていただいていますね。

(八重澤会長)

要はですね、これを読んだ方が非常に使い勝手がいいということになればそれでいいわけですよ。

(久保委員)

それでしたら、3つのCじゃなくて「チャンス」と「コラボレーション」だけでよいという考え方もあります。チャンスがあって、コラボレーションが実現されていくわけですから。チャンスとコラボレーションの実現っていう風にすると、チャンスの中にはクリエイションも含まれるという考え方もできるかと思います。私は今副知事がおっしゃったことに賛成します。

(八重澤会長)

どうもありがとうございます。このような意見もありますのでまたこれがどういうふうに、より良い変化発展を遂げるかということを楽しみにしてください。

(浅野副知事)

冬休みの宿題ということですね。

(八重澤会長)

吉田委員、このことについて何かご意見ございますか、感想でも良いのでお聞かせください。

(吉田委員)

私はこれでいいような気がしています。

(八重澤会長)

矢花委員、いかがでしょうか。

(矢花委員)

私はやっぱり難しいことは苦手な方なので、簡潔に分かりやすくっていうのと、言葉の方もより親しみやすい分かりやすい言葉に変えてもらえる箇所があるのであれば変えてもらったほうが皆さんに分かりやすいかなっていうことぐらいで。あとは全体的に今日の皆様のお話は、とても参考になりました。

(八重澤会長)

言い訳になるかもしれませんが、作る方としてはすごく頑張るんですね。頑張るとやっぱり気がつくともあれもこれも必要と盛っているんです。すごくたくさん、こんなに出来るはずないよねと思いつながらもやっぱり捨てがたいんですよね。

だから、ご覧になる県民の皆様に非常に分かりやすいものにしていくように（事務局は）努力をしたいと思います。ありがとうございます。

(石野委員)

タイトルのところですけども、「石川県男女共同参画プラン2026」っていうのは、これはもう付けざるを得ないというか、2021が2026になるということはそういう形と思うので、副題はあってもいいと思います。

3Cを何で付けたのかは、キャッチーな方がいいかなという意味では付けられたのかなと思いますし、そこは有っても無くてもいいかなって思います。あるいはクリエイションって非常に何か魅力的な言葉なんで、何か新しい社会とか新しい世界を作るみたいな意味で言えば、そういう言葉がキャッチーな意味ではあってもいいのかなという風に思いました。

それから副題の案のところですが、3つ提示して頂いているんですけども、私は「全ての“あなた”が活躍できる石川へ」というのが、もし「全ての“わたし”が活躍できる石川へ」という風に、二人称が一人称になってもいいかなという風に感じました。それぐらいですかね。細かいところは、また別に提示したいなと思っています。

（高橋（涼子）委員）

いろいろな言葉が出てきて、報告書の方で欄外に説明が入っていたりするので、読み込んでいただくという面ではある意味で啓発になっていいかなと思って見ていました。

その中で「ジェンダーに基づく暴力」という言葉があって、大体の意味は分かるんですけど、これもう少し、例えば国連の難民高等弁務官事務所による説明があったりとか、開発援助、紛争や災害に関する文脈でも使われている言葉であるといった情報も入っていると、「男性らしさ」「女性らしさ」の問題はもちろんのこと性的マイノリティの方に関わる暴力も含む広くて深い概念であることが伝わると思うので、そういったことも注（釈）でよいので、書いておいて頂けると理解の広がりにつながるかなと思いました。

（轟委員）

石川が目指す男女共同参画社会という入口を入れていって進んでいったときに、まず3Cという言い方でポンと投げたいんだと思うのですが、そこで説明を受けた後で、基本的視座へ行くとなんかモヤッとしてしまうような気がします。

先に基本的視座があって基本的視座はこういうものだと説明があつて、その立ち位置の説明をしてもらってから、3Cを説明してもらう方が初めて聞く人にはわかりやすいかなと思います。3Cをポンと投げたいのかもしれませんが、理解していく上では順序立てて進んでいったほうがわかりやすいかなという風にちょっとこの部分を見ながら感じました。クリエイションについてはモヤモヤとしていましたけれども、皆様方のご意見聞いてなるほどと思ったので、3つあったほうが収まり良いかなという風に思いました。

(八重澤会長)

たとえば、3Cを取った時に、副題はあった方がいいですか？もし、有ったらいいと思われるなら、3つの中でどれがいいと思いますか？

(轟委員)

副題はあったらいいと思います。あと、分かりやすいのは、「あなたもわたしも共に活躍できる」です。それが、皆さんにとって分かりやすく、一番説明しやすいかなという風に思います。

(廣澤委員)

私も副題はあったほうが良いなと思っています。3つの中だったら同じく3番目の「あなたもわたしも」が良いなと元々思っていました。

ちょっと気になっていたところが、7ページの数値目標のところの、先ほどもお話が出てました、「放課後児童クラブの登録児童数」と「マイ保育園利用登録率」のところに關してです。私自身が放課後児童クラブの管理者を2年前までやっていたという点と、現在加賀市の子育て応援ステーションで市の職員で働かせて頂いている点で、「マイ保育園利用登録率」が気になっているんですけど、そもそもこれがここに要るのかなってところが一つです。

あと、私も人数より率で行った方が良いと思っています。

また、最近女性進出のためにこういうことが増えていっているなと、最近、本当に親が子どもを見る機会をどんどん奪われていっているなと実感しております、それによって子どもたちの安心・安全・安定、3Aと言うんですけど、それが幼少期以降、乳児から小学校上がるぐらいまでの100か月に、親と一緒にいる時間がどんどん減っています。親っていつ子どもを見るんでしょかっていう感じなんですけど、そこをどんどん専門家に奪われていってしまうことによって、子どもが不安定になっているな、と感じています。

なので、この二つをここに目標値として出すことにすごく違和感があるというか、どんどん幸せな子どもたちを作らない方向に石川県は行こうとしているのかなっていう風にちょっと感じてしまうところがありました。すみません。そもそもの話で申し訳ないのですが、すごく違和感があります。

(八重澤会長)

ものすごく貴重なご意見だと思いますが、このインデックス自体を無くすということなんですけれども、事務局から何か意見ありますか？

(山若課長)

こちらの方ですけれども、なかなか難しい話だと感じます。子どもを預けることに抵抗があるとか、子どもを見る時間が減ってしまうっていうことも当然あると思いますが、働く女性を支えるにあたっては、子どもを預ける場所がないと外で働けないという側面もあると思います。

今すぐどうするのはなかなか言えないのですけれども、この項目について、置くのか置かないのかも含めて、検討させて頂ければと思います。

(八重澤会長)

是非お願いいたします。

(廣澤委員)

選べる自由さがあるのがすごく良いなと思っていまして、男女共同参画としても思っているので、目標にされるのがちょっと「ううっ」という感じです。

(山若課長)

分かりました。おっしゃるとおりだと思います。

(中村委員)

今の点ですけれども、実際に経験として働いて預けて、保育園、学童クラブと時間目一杯預けてきた者として、やっぱり学童クラブがなかったら仕事出来なかったかなというのが実感と、それから親と必ずしも時間が短くても、それが子どもにとって幸か不幸かはまたちょっと別の問題なんじゃないかなという風に思っていますので、私の個人的な意見としては、ここはやはり児童クラブを待機児童がいないような形で目標として持っていていただくというのは、県としてはやって欲しいなという風に思っております。

(八重澤会長)

わかりました。ますます、事務局は混乱しますね。さあ、こういう風に上手く着地点を見出せるのでしょうか？

ちょっと楽しみです。こういうことは議論をやっぱり大いにやった方がいいと思います。

(浅野副知事)

今の関連で質問させてください。「放課後児童クラブの登録児童数」の絶対数が問題なののでしょうか？

石川県では、待機は無いのでしょうか？

(廣澤委員)

あると思います。待機っていうか、実際、入れないことはあると思います。一人あたり何平米とか決まっているので、建物の構造上難しいというところで。

本当は4年生とか5年生とかも入れたいんだけど、1年生、2年生の下の子ならOKだけれども、5年生とか6年生の上の子は遠慮してくださいってこともあると思います。学童クラブの人数が減らないのも、4年生までOKだったのが数年前から「6年生までOKですよ」ってことになっちゃったので、そうなると親とすると、上の子だけ家に置いとくよりも、下の子も2人揃って入れておいたほうが安心、みたいな感じのところがあるので、数が減らない現状はあるかなと思います。

(浅野副知事)

ありがとうございます。

(八重澤会長)

現状との絡みで、どういう風にこの項目をどう取り扱うかということも検討させてください。

少し、簡単な方に戻ります。副題で「石川」を漢字にするかひらがなにするか、どうですかね？

単純にひらがなの方が良いじゃないかと思われる方は挙手してください。やっぱりこのまま漢字のほうがいいんじゃないかなと思われる方は挙手してください。(※漢字の方に多数の委員が挙手)

(八重澤会長)

漢字が良いということでしょうか。ありがとうございます。事務局の方、今ご覧になって参考までですが、とにかく漢字の方が、感じが良い、ということでしょうか。

(山若課長)

全体のバランスということもあると思います。
参考になりました。ありがとうございます。

(高橋(涼子)委員)

度々すみません。全体として本当に良く練って頂いているなと思いますが、副題のところでもちょっと気になり、それからさきほどの学童に関する意見のやりとりのところにも共通すると思うんですけども、「活躍」っていう言葉をやっぱりずっと使ってきて、それはもちろん働くということだけじゃなくて、地域で色々な形で活動に参加したりとかそういう部分も含まれると思うんですけども、例えばそうやって社会の中でつながって見える形で「活躍する」ということで、いつ休むのかなっていうのがちょっと気になりまして、先程の保育園とか学童という部分でも、例えば親子がもっと一緒に暮らせる時間も欲しいよねっと言ったら、ちゃんと休めるということもすごく大事だと思って、それはケアに男性も女性もみんな関わるといことにつながると思うんですけども。

例えば、さっきの指標の目標値のところにもベタかもしれませんけれども、休暇の取得率とかを入れるとか、有給休暇をどれだけしっかり取っているのかの取得率とか、介護休業がしっかり取れているとか、実効性のある数字であれば、休むとかそういった指標がどこかに盛り込めたらいいなと思います。

各県の副題を調べて下さっているのを見ていると、長野県は「働き方」に「暮らし方」を加えていたりとか、富山だと「ウェルビーイング」という言葉を使ったり、なんかこう「活躍」っていうすごくアクティブな動的なことにプラスして、もう少しゆっくり行こうよ休もうよ、休めるときに休もうよっていうニュアンスがなんか入るといいなっていう風に思います。

何も具体的な文言の提案なしにこういうことを投げると、またとても県の皆さんを働かせ過ぎてしまうかもしれなくて申し訳ないん

ですが、でもそういうニュアンスもどこかに盛り込めたら、漠然としたリクエストですけれども、よろしく願いいたします。

(八重澤会長)

それも入れて考えていきましょうか。他はどうでしょうか？

私、こんなにオンライン会議で皆さん意見をたくさん言って下さって、今まで通りでとても安心しました。

ただいまお聞きした意見を踏まえまして、修正することとしてよろしいでしょうか？そして、修正につきましては、どうか私にご一任願えますでしょうか？また適時事務局からも情報発信はいたしますので、よろしく願いいたします。

そうしましたら、まだ意見申し上げたい方、いらっしゃいますか？

(山崎委員)

たくさんの資料を事前に送って頂いてありがとうございました。

大変よく整理されて大変読みやすかったなと思っています。

審議会を通じてこういった意見が欲しいみたいなどころの論点みたいなどころを、ありましたら送って頂けるとそこを考えた上で参加が出来るかなと思うので、皆さんも考えやすくなるかなと思うので、そういった形でご連絡頂けると大変ありがたいなと思っております。

(浅野副知事)

ありがとうございます。今日、色々大胆に皆さんにも色々ご発言頂いて、これは要らないのではないかというご意見も含めて色々頂きまして、ありがとうございました。

今まで小委員会で色々議論して頂いた話は、非常に中身の濃い内容なので、中身自身の整理は、今この並べている施策が基本になると思いつつも、やっぱり項目がまだまだ多いとも思っております。これでも削っているのですけれども、色々な項目が結構多くて、こ

ちらとしてはスクラップというか、もっと大括りにまとめて、もっと分かりやすい言葉で短い言葉でと、是非大胆にやりたかったところでしたので、そういう意味では、今日の皆さんからのお声は大変良く分かりました。今後は、出来る限りしっかりちゃんと伝わるという話をそこに注意して、あとは、高橋（涼子）さんから最後に頂いたような「活躍」「活躍」ばかり言うのもちょっとね、という話も、私も妻からよく言われますので、なんとなくそういう目線だけでなく、バランスの取れた、自然体の社会をどう表すのかって話も少し工夫していきたいと思いますので、またご相談をさせていただきます。ご意見をいただきましてありがとうございます。

（八重澤会長）

ありがとうございました。これで本日予定しておりました議題の審議が全て終了いたしました。ジェンダーイコーリティ（ジェンダー平等）が123年かかるということ今朝のラジオで聞きました。

123年って、私たちは生きてないですよ。人類は火星に行っているかもしれませんね。

皆様のご協力にはいつも感謝しております。ありがとうございました。